

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

| | | | |
|-------|-----------------------------|--------------------------------|------------------------------------|
| 課題番号 | 16H06371 | 研究期間 | 平成28(2016)年度 ～令和2(2020)年度 |
| 研究課題名 | 神経行動形質を決定付ける遺伝子—環境相互作用の細胞機構 | 研究代表者 (所属・職) (平成31年3月現在) | 山元 大輔 (情報通信研究機構・未来ICT研究所・上席研究員) |

【令和元(2019)年度 研究進捗評価結果】

| 評価 | 評価基準 | |
|--|------|---|
| | A+ | 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる |
| ○ | A | 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる |
| | A- | 当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である |
| | B | 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である |
| | C | 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |
| (意見等) | | |
| <p>本研究は、ショウジョウバエの fruitless 変異体雄における、集団経験に依存した求愛行動の変化について、求愛意思決定ニューロン P1 を介した機構の解明を目的としている。</p> <p>集団経験を担う感覚経路、P1 ニューロンの長期的な活動変化機構、エピジェネティック制御の解明を目指しており、これまでに経験依存的な P1 ニューロン上流の機能変化や、P1 ニューロンの電気生理学的性質の変化の同定に成功するなど重要な知見が得られている。</p> <p>今後、P1 ニューロンへの投射経路の解明、エピジェネティック制御などの分子機構についての進展を期待する。</p> | | |